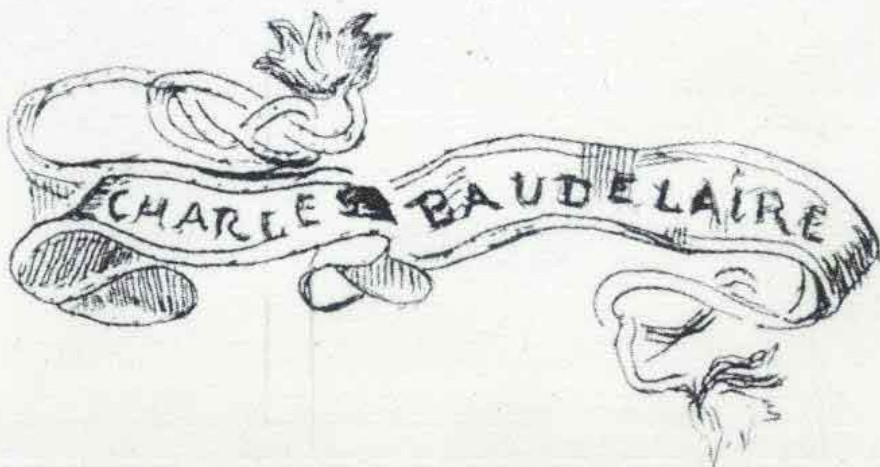


ボードレール批評

2

美術批評Ⅱ
音楽批評

阿部良雄訳



ちくま学芸文庫

ボードレール批評2

一九九九年三月十日 第一刷発行

著者 シヤルル・ボードレール

訳者 阿部良雄（あべ・よしお）

発行者 柏原成光

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都台東区蔵前二一五―三 ㊦ 二一―八七五五
振替〇〇一六〇―八―四二二三

案内 〇四八―六五―〇〇五三（サービスセンター）

装幀者 安野光雅

印刷所 株式会社精興社

製本所 株式会社積信堂

ちくま学芸文庫の定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はお取替いたします。

© YOSHIO ABE 1999 Printed in Japan

ISBN4-480-08472-X C0198

ちくま学芸文庫

ボードレール批評2

シャルル・ボードレール
阿部良雄 訳

筑摩書房

目次

美術批評II

一八五九年のサロン

II

一	現代の芸術家	12
二	現代の公衆と写真	22
三	諸能力の女王	32
四	想像力による統治	39
五	宗教・歴史・幻想	47
六	肖像画	98
七	風景画	108
八	彫刻	124

九 跋 145

現代生活の画家……………149

一 美、流行、幸福 150

二 風俗のクロッキー 155

三 世界人、群衆の人、そして子供である芸術家 157

四 現代性 168

五 記憶の芸術 173

六 戦争の年代記 178

七 盛儀と祭典 183

八 軍人 187

九 ダンディ 190

一〇 女 196

一一 化粧礼讃 199

一二 女たちと娼婦たち 205

一三 馬車 211

画家たちと腐蝕銅版画家たち……………217

ウージェーヌ・ドラクロワの作品と生涯……………229

音楽批評

リヒアルト・ヴァーグナーと『タンホイザー』のパリ公演……………277

リヒアルト・ヴァーグナーへの書簡……………339

註 345

収録作品解題 凡例 373

ボードレール批評2

美術批評II／音楽批評

美術批評II

一八五九年のサロン

「フランス評論」編集長殿への書簡

一 現代の芸術家

親愛なるM***よ、貴君が名誉にも〈官展^{サロン}〉の分析を私にご依頼下さった時、貴君は私にこう言われた、「簡潔になさって下さい。カタログを作るのではなく、全般的な概観、何かしら絵の並ぶ中を通つての迅速な哲学的散歩の話のようなものにして下さい」と。結構です、お望み通りのものをお出ししましょう。貴君のご提案が、〈サロン〉と呼ばれるかくも退屈なこの種の論文に対する私の考え方と一致するからというわけではありません（実際、一致するのですが）。この方法が他の方法より容易だからというわけでもない、簡潔さはいつだって冗漫さ以上に努力を要求するものですから。そうではなくて単に、とりわけ現在の場合においては、他に可能な方法がないからなのです。なるほど、私の当惑はもっと深刻だったことでしょう、もしも私が独創的な才能の林立するさ中に迷い込んでいたのであつたならば、もしも現代フランスの氣質が、突如として修正され、純化され若返つて、まことに活力ある花々、まことに多様な香りを放つ花々を咲かせたがために、それらの花々は抑圧すべくもない驚きを創り出し、溢れ出る讃辞、饒舌な感嘆の念を惹き起し、

批評の言語の裡にも新たな範疇^{カテゴリー}を必要ならしめた、というのであつたなら。だがそうしたことはまったくないので、（私にとって）幸いなことに。いかなる爆発もない。未知の天才たちもなし。この官展^{サロン}の相貌によって示唆される思念は、かくも単純、かくも古風、かくも古典的な部類に属するものなので、それを展開するのに、疑いもなくほんの僅かなページで私には足りることでしょう。ですから画家における陳腐が作家における月並^{メーヌ}を生み出したからといって、驚かないでいただきたい。そもそも貴君はそこに何ら失うところはありますまい。なぜといって（私は貴君がその点に関して私と意見を同じくされることを確認して喜ぶ者であります）、月並にもまして魅力的で、豊饒で、より明確に刺戟^{刺激}的な本性をもつところのものが、存在するでありましょうか？

始める前に、一つ遺憾の意を表明することを許していただきたいのですが、これは、私の思うところ、稀にしか表明されぬものでありましょう。われわれは迎え入れるべき賓客をもつであろうとの予告を受けました、まったく未知というわけではない賓客たちを。というのもモンテーニュ大通りの展覧会^イがすでに、パリの公衆に、あまりにも長く知らずにいたこれらの魅力的な芸術家たちの何人かを、知らしめてくれていたからです。というわけでは私は、これらの芸術家たちと旧知を暖めることを楽しみにして待っていました。英国精神の最も強調された表現にほかならぬ、あの豊かで、素朴で、高貴なユーモリス^{ユーモリス}トの、レスリー。一方は頑固な自然主義者、他方はラファエル前派の熱烈にして意志的な創始者

である、二人のハント⁽²⁾。自信をもつと同じほど血氣盛んな、大胆な構図家マクリース。かくも綿密な詩人ミレイ⁽³⁾。イタリアの大庭園における午後の美しい宴^{うたげ}の語り手であり、ヴァトーを混じたクロードともいうべきJ・チャロン。グラント、この、レノルズの自然な後継者。その《ヴェネツィアの夢》を魔術的な光に浸すすべを心得ているフック。精神^{こころ}をフュースリの方へと連れもどし、今の世のものではない辛抱強さをもつて、優美なる汎神論的混沌を刺繡する、あの奇怪なペイトン⁽⁴⁾。あの水彩画の歴史、画家カッターモール、それからもう一人の、名は忘れたがかくも驚くべき水彩画家、橋の支柱が象になっていて、その象たちの巨大なたくさんの脚の間に、満帆を掲げた巨大な三本マストの帆船を通すような都市を紙の上に建てる、夢想的な建築家！ これらの想像力と特異な色彩の友なる人々、これら奇異なる美神^{ミューズ}の寵児たちを、迎え入れるべき場所すら用意されていたのでした。ところが、やんぬるかな！ 私の知らぬ理由、その陳述が貴君の雑誌の中に場を占めることはできぬと私も思う理由のために、私の期待は裏切られたのです。かくして、悲劇的な熱烈さよ、キーン流⁽⁶⁾、マクリーディ流の身振り手振りよ、家庭^{ホーム}の内面的な優しさよ、イギリス精神の詩的な鏡に映し出された東方の壮麗よ、スコットランドの緑よ、魅惑的な爽^{さわや}かさよ、あんなにも小さいのに書割みたいに大きく見える水彩画の、遠退^のいてゆく深みよ、われわれは御身らを眺めることはないだろう、すくなくともこの度は。想像力と、魂の最も貴重なる諸能力との熱狂的な代表者たちよ、すると御身らは最初の時さほどに悪しきも

てなしを受けたのか、そしてわれわれは御身らを理解するにふさわしくないと判断されるのか？

かくして、親愛なるM***よ、われわれはフランスだけを論ずることとなるでしょう、否応なしに。そして信じてもらいたくない、私は自国の芸術家たちを語るに抒情的な口調をもつてすることができるなら、涯しもない喜びを覚えるであろう、と。だが残念なことに、多少なりとも修練を積んだ批評精神にあつては、愛国心は絶対的に専横な役割を演ずるものではないのであつて、われわれはいくつかの屈辱的な告白をなさねばならないでしょう。当官展^{サロン}に初めて足を踏み入れた時、私は階段の途中ですでに、わが国の最も鋭敏にして最も尊敬される批評家の一人と出くわしたのですが、最初の質問、私が彼に向けずにはいられぬ当然の質問に対して、彼は答えたのです、「平板、凡庸。私はこんなにも精彩を欠く官展^{サロン}というものを稀にしか見たことがない」と。彼は間違つてもいたし、同時に正しくもあつた。ドラクロワや、パンギイや、フロマンタンの作品を数多く所有する展覽会が、精彩を欠くことはあり得ません。しかし全般を検討してみれば、彼の言う通りであることは私にも分りました。あらゆる時代を通じて凡庸なるものが優勢であつたこと、それは疑う余地ありません。しかし、凡庸なるものがかつてなかつたほど支配的であること、絶対的に勝ち誇り、のさ張り返っていること、これは真実でもあり、胸痛ましめるものでもあります。首尾良く仕上げられたかくも多くの平板な物ども、念を入れてなめるよ